

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）  
平成 29 年度採択テーマ  
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
大規模土石流発生流域における土石流監視体制および対策の高度化 (研究期間：H29 年度～R1 年度)	静岡大学 准教授 今泉文寿	A
<p>&lt;研究概要&gt;</p> <p>本研究では大規模崩壊地である富士山「大沢崩れ」（大沢川）において、山腹からの土砂の生産量や貯留量、凍土の形成が土石流の発生条件および規模へ与える影響を検討した。その結果、凍土の形成や不安定土砂の貯留量により土石流の発生条件が変化すること、流下しうる最大の土砂流出量が不安定土砂の貯留量等により与えられることを示した。気温観測などに基づいた土石流発生域における凍土形成時期の推定や航空測量による土砂貯留量の把握が土石流の監視体制の高度化や計画的な除石につながることを示した。</p>		
<p>&lt;事後評価コメント&gt;</p> <p>本研究は、富士山大沢崩れの長期記録を整理するとともに、新たな観測結果を加えて分析することで、土石流材料の貯留量把握、土石流規模予測式が提案されており、流出・堆積土砂の合理的な除石計画の立案に繋がることを期待できるものである。</p> <p>今後は大沢崩れ域内の土砂生産と流出に関して、土砂移動の動態に関する映像等による定量評価をするとともに、国際学術誌等でも積極的に発信することが望まれる。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い